

# 一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

□日時	平成25年9月11日（火）	13:30～
□場所	山梨市民会館	
□出席者	129名	
	（内訳）PTA・学校関係者	105名
	市町村教育委員会関係者	24名
	その他	0名

## 1 学ぶ力について

### （質問・意見）

- ・自分の子ども見ていると読解力に欠けると感じている。
- ・情報機器を通じてでしかものを感じなかったり調べなかったり、辞書など本を開こうとせず、パソコン等で簡単に調べられる方法で勉強するため、読解力が全く身に付いていない。
- ・家庭の中で新聞を親子で読み合って話し合うとか大人と子どもと一緒に読み考えることが必要だと思う。
- ・山梨はのんびりしている人をけ落としてまで点数を稼ぐところがないところが良い。
- ・一方で何が起きるかわからない時代なので、生きていくためには何のために学ぶのか具体的に考え、活かすことが必要ではないか。

### →義務教育課長

- ・読解力について、文書を読み取る力、新聞の表を読み取り考える力も読解力である。
- ・全国学力学習状況調査で知識を活用する力は全国的に弱い。
- ・県では読解力を高めるための取組をしている。
- ・新聞や本の感想の意見交換なども効果ある。特に小さい頃は効果がある。

### →杉原教育委員

- ・大学生と話す機会があるが、学生たちは何のために勉強するのか強い関心を持っている。
- ・全国学力学習調査で「地域や社会の出来事に関心がある」山梨県の子どもは全国平均よりも高い。
- ・家庭の取組の成果が上がっている。
- ・一方記事を読み取り意見を言うことについてまだまだ課題がある。
- ・我々の取組も始まったばかりと考えている。

### →高野教育委員長

- ・会社を経営している。年1回社員の採用面接している。
- ・面接を通じて感じることは何のために勉強するのか学生の意識がわかりにくい。
- ・なぜ勉強するのか。卒業するためではなく、社会人として地域社会で生きていけるように、役に立つことができるようになることが学ぶ理由。
- ・なぜうちに就職するのか？就職できればよいのではなく会社の仕事に興味がある、この仕事をやってみたいと明確に語れる学生には関心がある。

- ・自分の人生を考えられるような基礎的な力を養うのが学校であると思う。
- ・新たな教育振興プランにおいても、社会の側としてどういう社会人を求めているのかの視点で教育を考えることも良いのではないか。
- ・学力と社会の中でたくましく生きることは必ずしもイコールではない。
- ・国際化が始まる中、思わぬ出来事が起きても対応できるような応用力だとかが必要である

### →長田教育委員

- ・スクールカウンセラーとしてさまざまな保護者と接している。
- ・生まれてから数年間の親子の心の交流がその後の育つ力に影響がある。
- ・自分以外の存在を信頼すると何か起きたとき基本的な安心した状態が作れる。
- ・子育てはやり直しがきく。
- ・社会の中でどう役立っているのかが学ぶ力のもとになる。
- ・自分以外の誰かの役に立てる経験が自分の自信になって戻ってくる。
- ・家族の中の役割を持たせることが自分の自信に繋がっていくと感じる。

## 2 高校入学者選抜制度について

### (質問・意見)

- ・参加3回目であるがこのような機会はとても有意義であると思う。続けて頂きたい。
- ・市の教育委員会でもこういう機会を設けて頂きたい。
- ・現在の入試制度だと前期合格発表後、前期合格者が騒いでしまっている。
- ・どこの中学校でもこういう現象がおきている。
- ・前期入試で不合格になった者が熟慮出来る時間が正味1週間あるかないか。
- ・前期試験の評判悪い。
- ・前期試験は、面接と作文と言いながらも、内容は口頭試験と小論文であり準備ができない。
- ・さらに前期試験は合否の判定がわかりにくい。
- ・後期試験は開示があり何点取ったかわかる。
- ・全県一区については、地域性も必要ではないか。
- ・地域に高校は4校あるが、才ある子はみんな甲府の高校に行ってしまう。
- ・地域にも素晴らしい高校もあるので地域性を活かしてほしい。

### →新しい学校づくり推進室長

- ・前期試験について答申に基づき高等学校入学者選抜制度中高連絡協議会で検討しているところである。
- ・その中で自己推薦から中学校長の証明書を検討している。
- ・作文について口頭試問を行わず特色適性検査として作文に変わるものを検討している。
- ・日程について、前期と後期を縮めた方が良いという意見もあり現在検討している。
- ・魅力ある高校づくりについては統廃合と都留興譲館高校の新設を進めている。

### →石川教育委員

- ・前期試験について過去最低倍率で定員割れもあり教育委員会でも意見を言っている。
- ・今日言われたことも踏まえて今後も検討していく

### →高野教育委員長

- ・笛吹高校観光コースなどをもっと特色あるものとして育てていくことが重要。
- ・理数科・スーパーサイエンスハイスクール・英語科など個性を明確にして磨き上げていく必要がある。
- ・そのためには全県一区が必要。
- ・前期試験の志願者減っていることは魅力がなくなっていることであり、見直しの時期にある。
- ・前期合格者が周りに配慮できないのは自他を思いやる心の欠如ではないか。

### →新しい学校づくり推進室長

- ・全県一学区の懸念されていることとして過度受験競争・序列化・特定校志願者集中。
- ・対応策として受験機会の複数化・複数の評価方法による選抜・特色ある高校づくり。
- ・全県一学区は概ね良好のため、当面は継続との答申を受けた。
- ・前期試験の在り方は今後検討していく。

## 3 いじめ・不登校問題について

### (質問・意見)

- ・このような話し合いが出来る機会は良い機会だと思う。
- ・子どもたちのいじめ不登校対策についてどのような取組みをしているのか。

### →義務教育課長

- ・いじめの現状については、関心が高まっており調査結果は多くいじめの報告がされた。
- ・対応策はいじめが起こらないような豊かな心づくり。
- ・豊かな心をはぐくむ山梨道徳推進事業によりいじめの起こらない学校づくりをしていく。
- ・教職員に関していじめを見逃さない教職員の意識を高く持つ研修を行っている。
- ・いじめが起きたときは、すみやかな対応ができるようスクールカウンセラーを増員して配置している。
- ・家庭環境など社会的な問題も絡むため、スクールソーシャルワーカーも増員して配置している。

### →長田教育委員

- ・表面に現れないネットによるいじめは発見が困難である。
- ・いじめる側が絶対に悪い。
- ・いじめられる側に問題を見つける風潮がなかなかなくなる。
- ・いつでもいじめの被害者にも加害者にもなりうる。
- ・自分の心と向き合える機会を作ってあげる人がスクールカウンセラーであると思う。

### (質問・意見)

- ・ 周りにいじめ・不登校にあった子どもがいた。
- ・ 学校の先生と話をすると家に行って何度も話をしたというが子どもは1回も会っていないという。
- ・ 子どもたちは学校に行きたいけどどうしたらよいかわからない。
- ・ 学校側は行ったというが子どもは会っていないとどのような対応をしているのか。

#### →義務教育課長

- ・ 子どもが先生に会いたいといっているのに行かないのであれば改善したい。
- ・ 実態がどのようなものか把握していない。
- ・ 個人的には子どもが会ってくれない状況があったが、会えない子どもには手紙を書いて部屋の前に置いた
- ・ 子どもが先生に会いたいのに会ってくれないならば改善していくべき。

#### →長田教育委員

- ・ 本当にそのような先生がいるならすごく悲しいこと。
- ・ 先生が毎日不登校の子どもの家に迎えに行っている姿も見かける。そんな先生もいる。

### (質問・意見)

- ・ 現場の事実が報告書などで上には伝わっていないのではないかな。
- ・ 現場でもみ消していることもあるのではないかな。
- ・ ちゃんと動いて頂いている先生もいると思うがごく一部の先生のためにこんな思いがあるのではないかな。
- ・ 不登校であれば、1時間でも学校に行く癖をつけていけば変わるのかなとも思う。
- ・ そういう子もいる事実を理解して欲しい。

#### →山梨市教育委員会教育長

- ・ その話は山梨市の学校ことだと思う。
- ・ 始めて聞いたが、教員が不登校の子どもに関わらないことはあり得ないと思っている。
- ・ 具体的な話をあとで聞きたい。

#### →義務教育課長

- ・ 不登校に関しては千差万別であり、いろんなケースがある。
- ・ 子どもエネルギーが枯渇している時に強引に連れてくるのがマイナスになることもある。
- ・ 各学校や教育委員会はそのあたりも熟知した上で対応しているが、場合によってはそれが上手くいかないことも現実としてあると思う。
- ・ 県は不登校の事実をすべて把握しているわけではないが、事例を通じた研修などを行っている。
- ・ 本県は不登校比率が高い時期があったが県教委と市町村教委が本気で取り組んだ結果年々減ってきている。
- ・ まだ課題はあると思うが、このような声を大切にしながら地道に取り組んでいく。

## 4 子どもの虐待について

### (質問・意見)

- ・子どもの虐待について、学校や教育委員会の取組みについて聞きたい

#### →義務教育課長

- ・虐待については、児童相談所などと連携して取り組んでいる。
- ・子どもの様子をつぶさに観察することが基本である。
- ・疑わしければ家庭訪問や関係機関と連携して取り組んでいく。
- ・一教師だけでは難しい面もあるので、スクールソーシャルワーカーや児童相談所等と連携しながら解決に取り組んでいくという体制にしている。

## 5 全国学力・学習状況調査について

### (質問・意見)

- ・全国学力テストは問題用紙と解答用紙が別々であった。
- ・学校での普段のテストと回答方法違うので、戸惑ってしまい時間が足りなかった。
- ・学校でのテストの出し方についても考えてもらいたい。

#### →義務教育課長

- ・見落としがちな声を頂いて大変参考になった。
- ・全国学力テストは子どもたちの本当の学力を知るための調査なので、形式の違いによる戸惑いは解決していかなければならない。

## 6 防災教育について

### (質問・意見)

- ・実践的防災教育推進事業ということで、県下5校で実施しているとのことであるが、これは試験的な導入で、今後はすべての学校で実施していく予定か。
- ・各小中学校は防災の避難施設になるので、先生方の対応の仕方に対する教育やマニュアルも充実していくのがよいのではないか。

#### →義務教育課長

- ・児童生徒が自ら危険を予測し、自ら回避できる主体的な姿勢を育てることが今の課題。
- ・実践的防災訓練については、実践的で役立つ訓練。将来的には各市町村で進めていく。
- ・実践的な事例をストックしているので、各学校で参考にして頂き、各学校ごとに取り組んでもらえるようにしている。
- ・地区ごとに防災教室を開いて、先生方に地図上で避難経路がどうなっているか等の研修も行っている。
- ・学校が一時的な避難所になることは想定されるので、学校でどういう対応が必要なのかということも研修を積み重ねて進めていく。

### **(質問・意見)**

- ・実践的防災教育事業は、県としてはとりあえずこの5校で終わり、後は市町村の対応に任せるといふ考えか。

#### **→義務教育課長**

- ・実践的防災教育事業は国の事業を受けて県が行っている事業である。
- ・本県独自の事業ではないので、今後国の動向を見ながら検討していく。
- ・今の段階ですべての市町村にらせていくということではない。

### **(質問・意見)**

- ・今後大きな地震が来ることが想定されている。
- ・発生した際、保護者が迎えに来られない場合の学校側の受入れ体制等を学校に聞いても市に丸投げの状況である。
- ・市に聞いても学校と協力して受け入れ態勢をとるとのこと。
- ・果たしてちゃんと機能するのか。
- ・山梨県は災害が少なく、危機管理が薄れている。
- ・子どもたちが自分の身は自分で守れる環境をつくっていくことが大事。そういったことを末端までに浸透させるような教育や対策を考えてほしい。

#### **→義務教育課長**

- ・市町村と学校との連携については、県教育委員会としても課題として捉え、今進めているところである。
- ・大変参考になる意見。今後活かして行きたい。

### **(質問・意見)**

- ・防災について、笛吹高校でも日川高校でも遠距離通学の生徒たちがいるので、帰宅困難者を想定した食や水が学校の予算で用意されている。
- ・どこの高校でも避難計画・防災計画や食料や水の確保などを保護者として考えていくことが、自分たちで身を守ることになる。
- ・県や市の教育委員会に相談することはもちろんだが、学校独自で保護者としても考えていくということが、高校生を持つ親としては大事だと思う。